

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2020年10月★第135号

海のプラスチックごみから、巨大な壁画を子ども達とつくる企画を水族館で開催

日時：8月22日(土)、23日(日) 10:30~16:00
会場：仙台うみの杜水族館内
主催：海と日本プロジェクト in みやぎ
参加者：約200名



地球温暖化防止活動推進員から、参加者に海洋ごみや地球温暖化についての対話を

お盆すぎの8月22日23日の2日間、仙台うみの杜水族館2Fのイベントスペースで、来場した子ども達や保護者の方々と大きなアート壁画を作成しました。壁画

に使われている材料はなんと、仙台市深沼海水浴場等で拾ってきたプラスチックごみ！ 子ども達はグルーガンで自由にプラスチックをはり付けて、海のいきものたちを表現していました。楽しく表現をしながら、普段環境イベントにあまり参加されない方々も、海の豊さや、プラスチックごみ問題への理解を深められました。

この企画は、日本財団と環境系学生団体海辺のたからものとの連携イベントで、MELONも企画段階からサポートしてきました。海辺のたからものは、大学生の環境サークルです。海岸で拾った海洋ごみからアクセサリを子ども達とつくり、海洋ごみ問題の啓発活動を

行っています。

壁画づくりの他にも、キーホルダーづくりと展示も行いました。展示では、今いきもの達が直面しているプラスチックごみ問題や海の酸性化の問題、またそうした問題と深く関わっている地球温暖化についてもわかりやすく学べる機会でした。

事前準備や当日の運営では、宮城県地球温暖化防止活動推進員の皆さんや、インターン生にも大活躍いただきました。コロナ禍で感染症対策を行いながらのイベントは大変な面も多々ありましたが、久しぶりに対面で環境問題をお伝えできる貴重な機会となりました。今後もこうした企画を行っていきますのでご興味ある方はご参加やお手伝いいただけましたら幸いです。



子ども達がプラスチックごみからつくったアート壁画

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 海のプラスチックごみから、巨大な壁画を子ども達とつくる企画を水族館で開催
- P2 世界一楽しいキリバスの授業が動画になりました／持続可能な社会の創り手を育てるための学習
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.88 ①
- P4 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.88 ②
- P5 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.88 ③／静岡県地球温暖化防止活動推進センター訪問記(後編)
- P6 MELON会員団体訪問記 第6弾／かんきょう見聞記「一攫千金」
- P7 会員団体からのお知らせ／「目指せ100人！環境リレートーク」中山建さん
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

世界一楽しいキリバスの授業が動画になりました

キリバス人のケンタロ・オノさんが小学校などに出向かれて、これまでたくさん子ども達とお話ししてきた授業のダイジェスト動画が、YouTube上でいつでも見られるようになりました。現在公開されているのは授業の前半部分で、キリバスの音楽やきれいな写真と共に、豊かなキリバスの自然や食、暮らしについて楽しく学ぶことができます。10月に公開される授業の後半部分では地球温暖化によってキリバスが直面している危機についてご紹介します。

一般社団法人日本キリバス協会とMELONの共同企画で行っている「ケンタロ・オノのキリバス物語」から見られます。見る方法はこちら→インターネットで「Youtube ケンタロ オノ キリバス物語」と検索！ ぜひご覧ください！

「ケンタロ・オノのキリバス物語」ではこの他にも、週1回程度のペースで、キリバスの魅力を余すところなくお伝えできるような動画を今後も公開していきます。



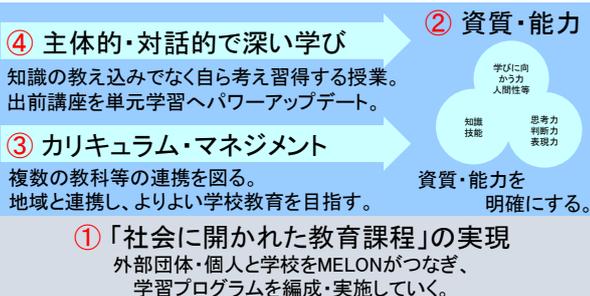
「ケンタロ・オノのキリバス物語」で配信中の動画

持続可能な社会の創り手を育てるための学習

小学校の学習指導要領が改訂され、今年度から全面実施となりました。学習指導要領とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）です。約10年に一度改訂され、これを基に子どもたちの教科書や時間割が作られます。今回、初めて前文というものが示され、そこに理念が掲げられました。その中に「持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ということと「よりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有する」という内容が明記されました。しかし、学校現場を見ますと、たくさんの方を抱え込んで多忙化しており、さらに、コ

ロナ禍によって学習の遅れを取り戻すことで精いっぱいというのが現状です。これからは、何もかも学校現場に丸投げするのではなく、学校と外部団体が手を取り合って持続可能な社会の創り手を育てるための学習を行うことがSDGsの実現につながっていくと考えます。現在、そのための学習プログラムを編成し、小学校で実践するための準備をしているところです。その一つが「キリバスSDGs学習プログラム」。ケンタロ・オノさんによるキリバスの出前授業を核として、小学校6年生の理科や社会の教科書に載っているSDGsを教科横断的に学んでいくプログラムとして編成しました。乞うご期待！

新学習指導要領で考えると…



新学習指導要領改訂のポイント

キリバスSDGs学習プログラムの特徴

《特徴》
教科横断的な学習となっております。



教科横断的な単元として学習することにより、現代的な諸課題に対応した資質・能力を育てます。

学習プログラムの提案

ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.88

ストップ温暖化センターみやぎ設立20周年記念誌を作成中！

2000年5月から始動した「宮城県地球温暖化防止活動推進センター（ストップ温暖化センターみやぎ）。2020年5月に20周年を迎え、現在設立20周年を記念する冊子を作成中です。

それに合わせ、MELON顧問の齋藤昭子さん（MELON初代事務局長）とMELON理事の門田陽子さん（ストップ温暖化センターみやぎ設立初期職員）から設立された当時のお話を伺いました。

1998年に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が施行され、各都道府県に地球温暖化防止活動推進センターを指定することができるようになり当時の理事たちが中心となって宮城県にMELONが指定を受けるよう働きかけたそうです。そして、2000年5月に全国で初めてNGOが運営する地球温暖化防止活動推進センターとして、MELONが宮城県知事から指定を受け、「ストップ温暖化センターみやぎ」が誕生しました。

当時の開催された設立シンポジウムでは多くの参加者が集まり、関心も高かったようです。設立1年目は宮城県からの委託事業を請け、環境家計簿CD-ROM普及やエコライフカレンダー作成、ごみの調査などさまざまな事業を実施するところからスタートしたそうです。

職員だった門田さんは私たちの暮らしとつながっている地球温暖化問題に対し、全く関心がない人も関心を持てるように、日常生活の中で当たり前に取り入れられるような実践術の紹介などをしながら活動を積み重ねて



対談の様子

いったそうです。

ストップ温暖化センターみやぎの活動の目的は「人財」を地域に残すこと。「私たちが地域をサポートした後には人が、想いが、行動が、その地域に残るように」を目指して取り組んできた当時の職員のお話を聞き、私たちも身が引き締まる思いでした！

現在、作成中の20周年記念誌。「こんな活動していたんだ！」「あ、今の活動はこの時の活動が引き継がれているんだ！」と感動するとともに、20年という節目に今携われることにも嬉しく思います。

齋藤さん、門田さんの対談なども盛り込んだストップ温暖化センターみやぎ設立20周年記念誌は2020年度中に発行します！ お楽しみに！！



みやぎエコライフカレンダー



お話しくださった齋藤昭子さん（右）、門田陽子さん（左）ありがとうございました！

地域を見つめて！ 丸森町

豊かな暮らしを求めて



今、世界では気候変動により洪水、巨大台風、干ばつなどの異常気象が多くなり、海水温上昇、山火事などで人々の命や生活、文化までが失われつつあります。気候変動の原因と言われる温室効果ガスは人間活動によって急激に増加したと言われています。そのような地球規模の課題に「1人1人が出来ることは何？」と考えたときに、

まず、頭に浮かんだのが地域を基本とすることでした。例えば、地元の食材を消費する「地産地消」が、その解決に一役買うに違いありません。なぜなら、温暖化効果ガスの多く割合は輸送によるものです。さらに勤務先が地元であり自転車で通える距離なら、通勤に生じるCO₂が削減されます。



なぜ、地域なのか？

地域（地元）に根ざすと地球規模の課題解決につながり、未来が見えてくる気がします。ある統計によると日本人は、環境の負荷が少ないエコな生活スタイルは「我慢」の日常と捉えているとのこと。それに対しヨーロッパの方々は豊かで健康的な生活とイメージしている割合が多いとのこと。ちょっと考えてみてください。満員電車で揺られ2時間近く通勤に費やす生活と程よい距

離に自転車や徒歩で歩いて行ける職場とではあなたはどちらが「豊かで健康的な暮らし」と思うでしょうか？

豊かな暮らしは地域を中心とした循環型のライフスタイルと考え、その魅力などを紹介出来たら気候変動問題への関心喚起に寄与すると考え、今回は県南の丸森町を訪ねました。



地域が基本！ 蝶が乱舞する丸森町を訊ねて！

訪問日：9月7日（月）
訪問者：推進員・篠原富雄氏、スタッフ2名
丸森町

- ・県南地区 福島との県境
- ・阿武隈川（全長239キロ）が流れます

人口：約1万3000人
宮城県で面積3.8% 人口0.6%を占めます。
2019年10月12日台風19号被害（2020年2月時点）
全壊111棟 半壊868棟 犠牲者10名 行方不明者1名
丸森町筆甫地区では、12時間で年間降水量の3分の1が観測されました。

丸森町は、2019年10月12日に台風19号で大きな被害を受けました。丸森町森林組合の組合長より、被災から約11ヶ月経過した現在の道路状況等のアドバイスを受けて、新川・五福谷川、不動尊公園キャンプ場に向かっ

て内川沿いを車で走りました。途中に多くの復旧作業中の現場に出会いました。キャンプ場先の道路が復旧しておらず筆甫地区には迂回路を通してしか行けないとのこと。ちなみに阿武隈川の支流である3つの川は18か所破堤しています。次に耕野に向かいました。アゲハ蝶が乱舞する沿道、くねくね道に囲われた棚田はまるで絵本や童話の世界です。しかしながら、この阿武隈川の上流、300～500m山間部では土砂崩れが100か所以上ありました。



水路に堆積した土砂の撤去作業：
石垣が本来の水路端

山間部・耕野地区の養蜂園を訪ねて丸森産のはちみつの魅力を知りました。（詳しくは次頁参照）

未来のため × 豊かな生活

台風19号から約11ヶ月経過していましたが、台風19号の被害の爪痕を目撃することになりました。しかし、立ち寄った道の駅には豊かな農産物や工芸品があり、偶然居合わせたお客様と談笑することができ、気持ちがいちがりました。

想定を超えた災害は私たちに様々な試練を与えてくれます。複雑に絡み合う現代課題の解決の針の穴を見つけ

るには知恵を絞った考えと行動が必要です。それは自分たちの土地の特徴・文化伝統が基本になると考えます。それが「地域の底力」あるいは「地域の資源」と呼ばれるものではないでしょうか。

未来の豊かな生活はそこにあるにちがいない。

宮城県ははちみつの地産地消が可能です



取材先：株式会社石塚養蜂園
石塚武夫さん（代表取締役）
住 所：宮城県伊具郡丸森町耕野字大高丸一番1-70

取材の最後は丸森町でも北西エリアの^{こや}耕野地区にある石塚養蜂園。山道を車で登っていき、見晴らしの良い場所にありました。蜂は暑さに弱いので、標高が高すぎないところがよいそうです。石塚さんは千葉県出身ですが、養蜂の修業期間を経て拠点を探しているうちに丸森町を紹介され、1997年に移住。以来20年以上養蜂園を営んでいます。丸森町は囲いをしなくても蜂が越冬できるとのこと。

養蜂は、さまざまな種類の花が咲く可能性のある雑木林がある場所が適していて、石塚養蜂園では、5～6月は木に咲く花から、夏から秋にかけては草花から蜜を採取するそうです。川の近くに



来客には試食をすすめ、人気投票をしてもらっている石塚さん

草花が咲いているところが多いので、2019年の台風19号の折は10か所設置している内、川の近くの巣箱が4か所ほど流されたそうです。

消費者に知ってもらいたいことはなんですか？

と伺うと、「はちみつは結晶化するものなので品質が劣化したわけではないことを知ってほしい」とのこと。蜜の種類によって成分が変わるので結晶化するスピードも違うそうです。また、純粋なはみちつは物質としても純度が高く、安定しているため、余計なものが混ざらなければ腐らないとのこと。鮮度についても、去年採れたはちみつより、今年採れたはちみつの方が良いということはありません。

はちみつの試食をさせていただき、蜜によって味が違うことを実感しました。はみちつはおいしいだけではなく疲労回復などにも効き目があるそうです。はちみつの地産地消を心掛けたいと思いました。



試食用のピンのふたはミツロウラップ。さすがです！



静岡県地球温暖化防止活動推進センター訪問記（後編）

訪問日：1月28日（火）
訪問先：静岡市立日本平動物園
（MELON情報紙134号（2020年6月発行）に掲載）
ふじのくに地球環境史ミュージアム
訪問者：吉田美緒事務局員



地球家族会議の様子

MELON情報紙133号から掲載している訪問記、前編中編で静岡県での取り組みについて紹介してきましたが、今回が最終回！ 最終回を飾るのは高等学校

の校舎をリノベーションして作られた博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」！ 博物館好きな私にとってまたまたテンションが上がる場所です。入ってから出るまで感動しっぱなしの場所でした！！

「ふじのくに」の海や陸、人と自然の関わりなど環境に関するテーマに沿った常備展示は1～10の教室があり、9～10は気候変動に関する展示です。展示室9では毎日「地球家族会議」が開催されています。来館者とミュ-



各教室ごとに様々な展示がされています

ジウムインタープリター（展示交流員）が地球環境リスクをテーマに対話を重ねて作り上げる全く新しい「対話展示」となっています。私も参加しましたが、なんと開催日ごとに進

行役のインタープリターが入れ替わり、開催回ごとにテーマが異なるため、何度参加しても楽しめるそう！

展示内容などは公式ウェブサイトにも掲載されていますのでぜひチェックしてみてください！（ふじのくに地球環境史ミュージアムウェブサイト：<https://www.fujimu100.jp/>）

今回で静岡県訪問記は終了！ 静岡県内の様々な取り組みを体験・学ぶことができた2日間でした！ 落ち着いたいたらまた行きたいな。



一番テンションが上がったカグラサメの標本

MELON 会員団体訪問記 第6弾

訪問日：7月9日（木）
 訪問先：ハリウ コミュニケーションズ株式会社
 専務取締役 菊地淳さん
 訪問者
 インタビュアー：
 MELON 情報センター運営部員 増田美鈴
 MELON 理事 石垣政裕
 事務局 山形裕昭

若林区にある印刷会社ハリウコミュニケーションズ株式会社を訪れ、現在の事業、活版印刷や環境面での取り組みなどを菊地さんからお話を伺い、実際に活版印刷を体験してきました。

ハリウコミュニケーションズ株式会社は、長らく活版印刷に取り組んでこられました。その後、コンピュータシステムが導入され現在に至っています。導入当時、新しいシステムでは活版組版技術の2、3割程度は再現できなかったそ



ずらりと並んだ活字

うです。最近、また活版が復活してきて、一部の機材を残し、せんだいメディアテークに寄贈されたそうです。現在、地下の活版工房に動態展示されています。ワークショップなども行われているそうです。



活版の心を伝える菊地さん（右）

また現在、印刷に使われているインキは、主に宮城県や山形県の学校給食から出る使用済みの米ぬか油を原材料に使った『ライスインキ』で、2010年3月から採用されているそうです。輸送マイルージもほとんどなく地産地消型のもので

す。環境に配慮した素材をいち早く採用し、経営をされているハリウコミュニケーションズ株式会社。是非、この技術者の努力と叡智と「巧み」の詰まった活版印刷を後世に伝え残して欲しいです。

詳しくは、WEBサイト 会員企業訪問記
<https://www.melon.or.jp/wp/visit/> を是非ご覧ください。
 トップページにバナーも設けました！



「一攫千金」

落語篇⑩
 きんげんていばしょう せい
 金原亭馬生「そば清」
 石垣政裕 (MELON 理事)

朝早くから、小型のエンジン音を響かせて草刈りが行われています。暑かった今年は雑草の成長も著しかったのでしょうか、田畑や用水路の周辺を地域総出で草刈りを行っています。たいへんな仕事です。別のあぜ道では、除草剤を使ったのでしょうか、ある区画、すっかり雑草が枯れているのを見ることがあります。

今回は、十代目金原亭馬生の演ずる「そば清」(コロンビアミュージックエンタテインメント社、2009年)を聞いてみましょう。

江戸時代に、なん杯そばが食べられるかというこ

とにお金を賭ける「そば賭け」というのがあったそうです。その世界で「そば清」と名の知れていた清兵衛さんは、とてつもない枚数に挑戦することになりました。清兵衛さん、思いあぐねて旅に出ました。そこで偶然、人間を飲み込んだウワバミ（大蛇）が赤い草を食べたらスーッと消化してしまったのを見て、「これは使える！」とその草を持ち帰った。

さあ、「そば賭け」の当日。食べられるギリギリのところまでいって、清兵衛さんはこの薬を使います。ところが、消化したのは食べたそばではなくて……。というある意味ではぞっとするようなお話です。

さて、除草剤は、遺伝子組み換えの技術と組み合わせることによって、必要な作物を効率的に収穫できるとあって、いわゆる「アグリビジネス」では使われることも多くなり、それによる健康問題も大きくなっています。自然と向き合う農業に『一攫千金』のようなビジネスを持ち込むことは、リスクもまた背負うことになるのでしょうか。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

緊急学習会「福島原発事故は私たちの^{暮らし}をどう変えた」

東京電力福島第一原発事故の被災者約が国と東電に慰謝料や居住地の放射線量低減を求めた生業訴訟控訴審の判決が仙台高裁でありました。一審・福島地裁判決に続き国と東電の責任を認めるものです。

原発事故から9年半がたち、わたしたちは福島を忘れないよう、さまざまな取り組みを続けています。女川原発再稼働の是非が問われている今、再度、福島原発事故がもたらしたものについて考えてみます。

開催日時：11月17日（火）10：30～12：00

会場：エル・パーク仙台セミナーホール
（仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル5F）

講師：今野順夫さん（元国立大学法人福島大学長、元コープふくしま理事長）

参加費：無料 定員50人

主催：みやぎ生活協同組合

<問い合わせ・お申込み先>

みやぎ生活文化部 TEL：022-347-3826 FAX：022-218-5945
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2



目指せ100人！ 環境リレートーク



第78人目の執筆者

中山 健さん
（自然農場 風天）

宮城県柴田郡村田町のボツンと一軒家で「自然農場 風天」という屋号の農家を営んでいます。風天では“固定種・在来種”という古い品種の野菜を主力として、農薬・化学肥料をつかわない、いわゆる有機農業を行っています。また平飼いとオリジナルブレンドの餌とでニワトリを飼い、有精卵も採卵しています。主に個人と飲食店に、軽トラで直接お届けする販売スタイルです。

今年の天候は、春が乾燥して暑く雨が降らないのはここ数年毎度のこととして、その後の梅雨は1か月降りっぱなし、夏は1か月猛暑で晴れっぱなし、と極端な気候で本当に苦労しました。毎年「史上最高気温」「100年に一度の●●」という表現を見る

ようになり、こうなるともう現状が普通なのではないか？ と思ってしまいます。気候変動の影響をモロに受けている集団のひとつが、我々農家かもしれません。おまけに今年はコロナ騒ぎもあり、他業種ほどではないかもしれませんが経済的にも打撃を受けました。天候極端化とコロナとのダブルパンチです。これはひどい！

しかし我々農家は、人間の力ではどうしようもない事態に直面することが多い仕事でもあります。ある程度の“あきらめ力”もありますし、打たれ強さも持ち合わせております。鳴いても騒いでも現状が好転することはありません。まずは日々、自分にできる仕事をコツコツやること。それだけです。生産者の責任を果たし、自分の生産物で一人でも多くの方を幸せにできればと思います。

■自然農場 風天 <https://foo-10.com>

… 次号執筆者紹介 …

高橋カナメさん
（タレント・有害鳥獣駆除従事者）





会員ひとこと〜

会員の皆さんの環境への思いやイベントに参加しての感想を声にしていきます。

8/22仙台うみの杜水族館での海洋ごみについて、ウミガメ以外にもたくさんの生き物たちの影響があると聞いて他人事ではないと思いました。これから生活の内容を変えていかなければいけないと感じました。

(仙台市泉区在住 けんちゃん)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

イベント一覧 (11月～1月まで)

11/19 (木)	持続可能な社会のための気候変動適応策シンポジウム
11/26 (木)	環境出前講話「キリバス編」仙台社会学級研究会
11/28 (土)	第25回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ
12/16 (水)	環境出前講話「キリバス編」宮城県柴田高校
1/12 (火)	環境出前講話「キリバス編」名取市立相互台小学校

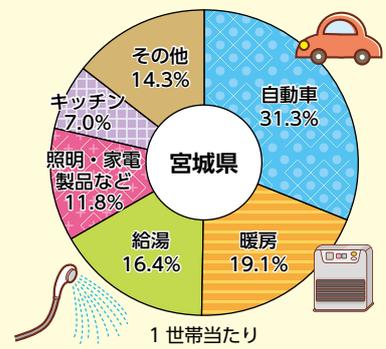
うちエコ診断 受診者大募集!

地球温暖化防止のためには私たちの家庭から排出しているCO₂削減も重要です。しかし、普段生活している中でどれくらいCO₂を排出しているのか、そしてどうやって削減するのか分かりませんよね。

そこで「うちエコ診断」を受診してみませんか? 家庭のCO₂排出状況が見える化! さらに、省エネのスペシャリスト「うちエコ診断士」が各家庭に効果的な省CO₂対策のコツを教えます!

例えば、宮城県の家からのCO₂排出量第2位の暖房では、外出や就寝時の各30分前、計1時間暖房を止めるだけでも年間100kgのCO₂を削減することができます。

それ以外にも各家庭のCO₂排出状況に合わせオーダーメイドの省CO₂対策をご案内いたします! 詳細はストップ温暖化センターみやぎまでお問合せください!



約 4,800kg-CO₂/年
データ元: 2019年度うちエコ診断実施結果

インターン紹介



みずの こうへい
水野 公平
(東北大学農学部4年)

大学では農業経済学を専攻しており、その中で環境問題についても学んできました。大学生最後の年、インターンの活動を通して学んできたことをアウトプットしたいと思います。

趣味: ピアノ
興味: 海洋プラスチック

編集後記

■7月からスタッフになりました。小学校の教員として取り組んできた環境学習や防災学習の経験を生かしていけたらと思います。よろしくお願いたします。(亀崎)

■暑い夏がようやく終わり、過ごしやすい季節がやって来ましたが、未だ厳しい環境が続いております。ストレスをうまくコントロールしてお過ごしください。(山形)

前月号 誤表記のお詫び

6月号 4～5ページに記載のありました 仙台オーガニック食べ歩きマップ×仙臺農塾の店舗紹介②の表記ですが、【正】地酒地料理 太左エ門が、【誤】地酒時料理となっておりました。大変失礼いたしました。

〈会員状況〉

513名
法人 55
任意団体 10
個人 448
2020年8月31日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON 協力商品券と交換できます。



MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network
〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL https://melon.or.jp

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。